

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成29年10月16日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科

職名・学年 博士後期課程2年

氏名 安達 絵美

助成の種類	平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第25回アジア・オセアニア産婦人科学術集会		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Impact of gestational weight gain on perinatal outcomes by maternal pre-pregnancy body mass index.		
開催場所	中国・香港		
渡航期間	平成 29年 6月 15日 ～ 平成 29年 6月 18日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000円	
	使用した助成金額	150,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空券代	54,710円
		電車代	11,205円
		宿泊費	37,874円
学会登録費		47,568円	
	上記のうち 150,000円分に充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は助成いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、発表準備に専念し、国際学会での研究成果の発表の機会を得ることができました。		

成果の概要／安達絵美

研究集会名：第 25 回アジア・オセアニア産婦人科学術集会（25th ACOG）

開催場所：中国、香港

開催期間：平成 29 年 6 月 15 日～6 月 18 日

演題名：Impact of gestational weight gain and perinatal outcomes by pre-pregnancy maternal body mass index.

学会の概要

アジア・オセアニア産婦人科学術集会は、アジア・オセアニアに属する 28 ヶ国からの産婦人科学に携わる医療従事者および研究者が集まる国際学会である。例年、およそ 2000 人が参加する。この度、第 25 回アジア・オセアニア産婦人科学術集会に参加し、様々な国からの研究成果を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

発表の概要

【背景】現在、日本の母子健康手帳には、妊娠前体格を考慮せずに実施した研究結果をもとに、妊娠前体格別の妊娠中の母体体重増加量の推奨値が示されている。本研究は、日本における母体体重増加量と周産期アウトカム（低出生体重児・Small for gestational age (SGA) 児・ Large for gestational age (LGA) 児）との関連を妊娠前体格別に明らかにすることを目的とし、実施した。

【方法】日本産婦人科学会が管理する周産期登録データベースを用いて過去起点コホート研究を実施した。データベースには国内の分娩施設300 施設（うち8 割は周産期医療センター）の母児データが登録されている。2013年1月1日から12月31日に正期産した単胎妊婦とその出生児を対象とした。データベースに登録された186,234 組の母児のうち、基準を満たした118,543 組を対象とした。妊娠前BMI (kg/m²) が18.5 未満をやせ、18.5-24.9 を標準、25.0-29.9 を過体重、30.0以上を肥満とした。妊娠前体格別の母体体重増加量と低出生体重児・SGA児・LGA児の出生との関連を調べるために、妊娠前体格が標準かつ母体体重増加量が9-11kgを基準とし、多変量ロジスティック回帰分析を行った。本研究は京都大学医の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】対象者の妊娠前体格がやせ、標準、過体重、肥満の割合は各 17.2%、71.3%、8.3%、3.2%で、母体体重増加量の中央値は各 10.4 kg、10.2 kg、8.0 kg、5.3 kg であった。全体における低出生体重児の出生割合は 9,745 人 (8.2%)、SGA 児は 9,602 人 (8.1%)、LGA 児は 11,636 人 (9.8%) であった。低出生体重児・SGA 児の出生リスクは妊娠前体格がやせ・標準・過体重の妊婦では母体体重増加量が大いほど低下し、肥満の妊婦ではU字型の関連を示した。一方、LGA 児の出生リスクはいずれの妊娠前体格においても母体体重増加量が大いほど上昇した。母体体重増加量の影響はやせ、肥満、過体重、標準の順に大きかった。

【結論】母体体重増加量が少ないと低出生体重児・SGA 児の出生リスクが上昇し、多いと LGA 児の出生リスクが上昇した。母体体重増加量と周産期アウトカムとの関連は、妊娠前体格がやせの妊婦で最も大きかった。妊娠を希望する女性、中でもやせの女性は特に、妊娠前体格にあわせて適切な妊娠前・中の体重管理を行うことの必要性が示唆された。

謝 辞

本演題はポスター形式にて発表した。今後も引き続き研鑽を積み、母子の健康に寄与できる研究に関わっていきたい。この度の研究発表について助成を認めていただきました京都大学教育研究振興財団の関係者各位に心より御礼を申し上げます。